

7月新刊案内

パウル・フランクフル

ゴシック建築大成

ポール・クロスリー 校訂
佐藤達生・辻本敬子・飯田喜四郎 訳

定価 60,900 円 (本体 58,000 円+税)

B5判上製函入 本文 776 頁 口絵 8 頁 挿図 336 点

ISBN 978-4-8055-0661-5 C3052

フランクフルの『ゴシック建築大成』は、その展望の広さと細部情報を駆使する力、ならびに理論の構築という点からみて、野心的なペリカン美術史叢書のうちに比肩するものはほとんどない。ゴシック様式と中世の精神性の中にあるその根源に関する包括的研究として、フランクフルの著書に現在でもならぶものはない。しかし正にこの特質のために、彼の著書はこれまで等閑に付されてきた。フランクフルは 83 歳で死去したが、その数ヶ月後の 1962 年に刊行されたこの著作は、外国の知識階級、すなわち 1960 年代のイギリスやアメリカではなく、1920 年代と 30 年代のドイツの研究者向けと思われた。アメリカのある書評家は「奇妙な本」と評し、別の書評家は「フランクフルの理論と事実の……組合せがきわめて個性的なので、書評は困難」とした。ペリカン叢書のうちどの本も、フランクフルの本ほど一つの理論的基盤に強く依存しているものはなく、ゴシック建築とそれを取り巻く文化のあらゆる様相の基盤をなす一般原理を、この本ほど真剣に探究した研究はない。

(「概説 (ポール・クロスリー)」より)

フランス大聖堂外陣内部

中央公論美術出版

目次

謝辞 (ポール・クロスリー)

概説 (ポール・クロスリー)

初版に対する編集者の注記 (ニコラウス・ペグスナー)

初版の序文 (パウル・フランクル)

第1部 ゴシック建築の歴史

序論

第1章 過渡期

第2章 初期ゴシック様式

第3章 盛期ゴシック様式

第4章 後期ゴシック様式

第2部 ゴシック建築の基本問題

用語解説・参考図版・参考文献・索引

訳者あとがき



アンナベルク, アンネンキルヒエ



ランス大聖堂内陣外観

〈著者略歴〉

パウル・フランクル

PAUL FRANKL (1878-1962)

ブラハの作家・学者の家系でユダヤ人の旧家に1878年8月22日に生まれる。初め建築を学ぶが、のちにミュンヘン大学でベルトルト・リールの指導の下に、南ドイツのステンドグラスに関する研究論文を1910年に提出し、博士号を取得。また、ミュンヘン時代にはドイツならびにヨーロッパの美術史の創設者の一人、ハインリヒ・ヴェルプリンに師事し、ルネサンスとポスト・ルネサンス建築に関する大学教授資格取得論文を発表。1921年、ハレ・ヴィテンベルク大学美術史教授に任命され、理論的関心を中世建築に応用し始める。

1933年/34年、ナチスによりハレ大学教授職から追放され、1933年に渡米。プリンストン大学研究所の所員として受け入れられ、死ぬまでこのポストにとどまる。この間、本書の姉妹篇『ゴシック論大成』(1959年)(小社刊予定)を執筆。1962年1月30日、同地で歿。

〈訳者略歴〉

佐藤達生 (さとう・たつき)

1952年生まれ

大同大学教授 工学博士

辻本敬子 (つじもと・たかこ)

1957年生まれ

名古屋造形大学非常勤講師 工学博士

飯田喜四郎 (いいだ・きしろう)

1924年生まれ

名古屋大学名誉教授 愛知工業大学客員教授 工学博士

〈関連書籍〉

建築史〔全2巻〕 オーギュスト・ショワジー 著 / 桐敷真次郎 訳

上巻 B5判上製函入 本文768頁 挿図412点 定価47,250円(本体価45,000円+税)
ISBN 978-4-8055-0561-8

下巻 B5判上製函入 本文964頁 挿図455点 定価63,000円(本体価60,000円+税)
ISBN 978-4-8055-0562-5

フランス19世紀に活躍した才能豊かな建築家ショワジーが、世界のあらゆる建築様式の根底にある、共通の原理・法則を解明。徹底的に構築することに眼目をおいたその建築論は、ル・コルビュジエをはじめ、多くの建築家に影響を与え、現在も未来も読み継がれる世界建築史の古典的名著。原著で不透明な記述に訳注を補足、巻末には詳細な索引を作成した。

中央公論美術出版

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-8-7
電話 03-3561-5993 FAX 03-3561-5834

お取り扱い